



種蒔きから始めるウルシの苗木づくり

種子購入者向け説明書 (簡易育成版)

一般社団法人 次世代漆協会



簡易育成とは

ホームセンターで購入できる資材を使って お住まいの敷地で苗木を育てる方法

専門の種苗家は、必要な数量の健全な苗木を確実に早く育成させ、植栽に提供しています。

そのため

- ・健全な種子の**選別**
- ・種子の休眠状態をコントロールする**温度管理**
- ・成長促進の**施肥**
- ・**日あたり**の良い圃場
- ・自動化した**水遣り**
- ・**成長期間**を長くするビニールハウス

など成長の観察とその状況に応じた対処ノウハウは深く、設備も大がかりです。

これに対しこの説明では、特別な資材、技術、場所を選ばず、種子の持つ力を活かした方法を示し、簡易育成と呼びます。



苗木育成の行程と目標とする大きさ

種子の準備



種蒔き



(植替え)



2年程度の育成期間



【目標の大きさ】

樹高40cm以上

地際の幹の太さ7mm以上



植栽

※樹高＝葉を含まない樹木の地面から幹の頂点までの長さ

※地際(じぎわ)＝幹のうち最も土に近い部分のあたりを指す



苗木獲得数について

【ウルシの種子10g、約200粒を利用のケース】

■種子の発芽率は10%～30%

■苗木獲得数20本～60本と想定される



※苗木獲得数に影響する要素

- ・発芽率
- ・個体差
- ・育成方法

植替えのショック、日当たりや水遣り加減、極端な温度変化などの影響で枯死する苗があり、発芽数>苗木獲得数となります



ご提供する種子について

- ・11月頃、ウルシの実の付いた房を採取
- ・1か月程度風通しの良い方法で乾燥
- ・果軸から実を外す(脱穀)
- ・実の殻を剥き種子をとる(精米)

弊社の種子はこの操作をして得たもの。



種蒔き(播種)の時期

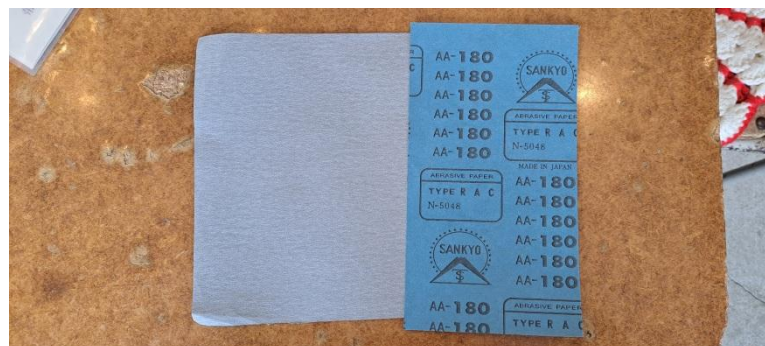
種蒔きの時期は3月の末頃前後
発芽は5月～6月を想定



(参考)種蒔きの時期を考慮した日程で処理を進めましょう。



吸水促進処理



●ウルシの種子はロウ(蠟)でコーティングされており水をはじくので、種子のロウを部分的に削り、そこから種子の内部に水が浸み込みやすくする。

サンドペーパー(120～180番)を敷きます。

(擦り付け作業の擦りやすさを考慮した番手)

●サンドペーパーに種子を置き、指で押しつけながら15cm以上、奥や手前に擦り付け、ロウと種子の外皮を削る。

種子の一面を擦るので十分。両面、全面を擦る必要は無い。

※耐油性・耐摩耗性のあるニトリルゴムの背抜き手袋を使うことをお勧め
(様々な作業で使いやすい手袋です)

※作業時間の目安は200粒で30分程度



吸水養生



サンドペーパーで擦った種子をたっぷりの水に浸ける。

水は水道水のカルキ成分を減らすため汲み置きまたは一度煮沸し冷ました水が好まし。

井戸水、沢水などの天然水でも良い。

水に浸けると、沈む種子と浮く種子、浮も沈みもせず中間に留まる種子がある。
一般的に浮く種子は中味が空っぽのものや発芽能力のない種子でシイナといわれる。
ウルシの場合、水によるシイナの選別は精度が低く、浮く種子でも発芽するケースがある。
したがって吸水養生前に種子の選別する必要性は低い。

※吸水養生中～後、シイナの見分けが付きやすくなってから選別するのが良い。

※(参考)吸水前の種子は、ショ糖選(砂糖水による選別)の精度が高いことがわかっている。



吸水養生の状態の判断



時々かき混ぜたり、水が濁ったならば交換。

吸水養生のぐあいは種子の様子で判断。

乾燥した種子と比べ、やや膨らみ透明感があり種子内部の胚が透けて見えるようになる。

種子をつまむと固かった種子が指でつぶせるぐらいの柔らかさになる。

シイナ除去はこの段階で行う。

水に浸す期間は約10日間程度。





種蒔き



ポットの大きさは350cc以上
※大きいポットほど苗木が成長しやすい
ポットの大きさに合わせたトレイを用意します。



ポットの土の上に種子3～4粒が隣接するように蒔く。
種子を隣接して蒔くと良く発芽するような傾向がある。
蒔き終えたなら、種子が隠れるよう1cm程度土をかぶせ、
水やりをする。

※写真は不織布ポッド。ビニールポッドでも良い



【セルトレイ利用の場合】

双葉が発芽し、成長して本葉が本葉が4枚以上付き、葉を含む樹高が10cm程度になったならポッドに植替が必要。

成長の様子

発芽後は「ウルシかぶれ」に注意



双葉が発芽



本葉が付き始める



1年目はこのくらい



2年目で
伸長と肥大を目指す



苗木の完成
落葉状態で植樹

植替え

発芽後は「ウルシかぶれ」に注意



【ポッドに複数の芽が育成した場合】

【セルトレイで育成を始めた場合】

植替えをする。

植替え先のポッドに土を1/3程度入れておく。

植替えする苗木を、根についている土ごと取り出しポッドに入れます。

苗木とポッドの隙間を埋めるように土を入れ水をたっぷり含ませる。

※育成している苗の根の状態を変えずにポッドにいれるのがポイント。

※最も枯死のリスクとなる作業、慎重に。



ポッド苗の育成ポイント

【水やり】

ポッドの土は乾燥しやすく、土が常に水を含んでいる状態を維持するよう季節に応じた水遣りをするのが大事。特に真夏は乾燥リスクが高くなるので一日に数回または水張をしたトレイにポッドトレイを置くなどの工夫が必要。

【肥料】

肥料が無くても成長する。肥料を使う場合、窒素、リン酸、カリの比率が2:1:1のものを土の上に少量蒔く。

【異物除去】

虫をはじめコケや雑草が発生する。気が付いた際に除去するのが好ましい。

【越冬】

完全に落葉したならば、風雨や雪にさらされないような場所に置くか、室外の場合、幹が折れないようポッドを寝かせて冬を越す。



成長した苗木の植樹

成長した苗は、ポッドを外し植樹しましょう。

ウルシノキ育成はここからが本番の始まり。

漆掻きによる漆採取用に育成を目指す場合、植樹から15～20年間。
胸高直径15cm、樹高10m程度までじっくり育成。

次世代漆協会は植樹からおおよそ5～8年間。

胸高直径5cm、樹高3mの若齢ウルシノキから新しい方法で漆を採取します。